

2014年4月15日版

生理的物理学方面根幹技術研究ご担当者様

# ものづくり進化論

TQ 事業協会運営部長  
縄文  
JOMON あかでみい校長  
まなぶ  
山田 学

※深い事情があり、旧かなの良さも研究してをります。

日本社会あるいは日本社会以外において生理的物理学方面の根幹技術研究を担当してをられる諸賢に、ものづくりをひろく深く進化させる道について、ご提案申し上げます。〈諸生理を調整するための物性加工における根幹技術〉。かう考へられる、わたしどもの TQ 技術 (名称由来は後述) についてです。

たとへば運輸機械のトヨタ・ホンダや通信機器のソニーなどの成功物語から次の成功物語へ。日本社会は今、産みの苦しみにあります。

建築・運輸・金融・通信のものづくりから健康・住居・食物流通・農業・環境のものづくりへ。さういふ市場進化へ仕入・生産・陳列・販促・健康平和教育の最高品質最低費用を追求していく。

たとへば記録機器 (ひろい意味の通信技術) を追求してきた富士フイルム社がデジタル通信技術に敗北し、それまでのアナログ技術蓄積への視角を転換してみたら、美容商品などへの本格参入も可能だった。産みの苦しみが一段落した例でせうか。

総じて日本社会全体の内部留保を〈ものづくり進化の安産へ〉どう活用するか。これが問題です。

日本民族は長い縄文期を素地として輸入した農業において独自の方法を確立し主に米作りの長い伝統の上に手工芸さらには大規模工業といふものづくりの伝統を確立しました。これらをさらに環境技術などへ応用転化することが求められてゐるのであり、単純な「脱工業化」ではありません。一方、今の日本社会と日本国は次を第一の目的とすべきでせう。すなはち、核廃棄物の根本処理を軸にあらゆる産業と技術開発と学問と芸術と報道と行政と統治を再編していく。核廃棄物の根本処理についての深刻さを正視する、軽視したり逃避したりしてゐる余裕はない、といふことです。

核廃棄物の根本処理がとても困難なのは、物理学が未発達だからでせう。現実の世界の物理や生理について、今までの人間社会の物理学や生理学にとり、既知の面のみではなく、未知の面もかなりある。このことは、わたしどもの TQ

技術をめぐっても、切実に感じられるのです。一方、日本民族が発達させているもののあはれ・雪月花・花鳥風月などの表象は、今までの物理学や生理学にとつての既知の面をも未知の面をも、まづは概念でなく表象として、全面認識してあるのではないか。これを少しずつ少しずつ概念化していくところに、物理学や生理学の発達があり、一方、日本民族の成熟もあるのではないでせうか。わたしどもの TQ 技術からまさに日本民族らしいものづくり進化論の提案なのです。

西欧民族などが概念してきた原子ないし素粒子と、日本民族が表象してきたもののあはれ・雪月花・花鳥風月。研究や教育の現場において、この西欧など概念と日本表象の矛盾をどう解決していきませうか。

わたしどもの TQ 技術の原則は、〈固体物性の一定のあり方が、そのまはりにある人間や他生物や元生物の健康のあり方を左右する。〉といふことです。まさにこれからの環境調和技術などの根幹となりうる、とわたしどもは判断してゐます。わたしはわたしの父・山田俊郎 (1926 ~ 1996) が発明したこの技術<sup>としを</sup>の、理学的解明に挑みましたが、事はまったく簡単ではありません。今までの物理学や生理学の修正と補足が必要である、といふ結論に達してしまひました。わたしどもが TQ 処理と称してゐる物性加工の工程 (一定の物理的装置を用ゐ、人間の技能や修行をまったく必要としない。) については、少くとも 1993 年から一度の失敗をも経験してゐません。しかし、この工程についての理学的説明は、父にもわたしにもできてゐないのです。生理的物理学方面の根幹技術研究を担当してをられる諸賢にひろく共同研究を呼びかけるゆゑです。

わたしどもは今までの物理学への補足として、場に新たに〈酵素活性場〉といふものを加へ、物性に新たに〈生命促進性〉といふものを加へるやう、提案します。

そして TQ 処理は、空間の〈酵素活性場〉といふ場を調整するため、物質の〈生命促進性〉といふ物性を加工する技術です。

物質の〈生命促進性〉が変化すると、空間の〈酵素活性場〉が変化します。この原理を応用し、健康や住居や食物流通や農業や環境により善く貢献していく。これが TQ 技術です。

〈生命促進性〉には、質と向きと強さがあります。

たとへばここに、ある健康に良い物質があり、これを元の物質とします。次に、元の物質とは、化学的に無縁な物質があり、これを先の物質とします。ここでは、元の物質を、肝臓のための漢方薬としませう。先の物質を、それとは化学的に無縁な、ステンレスとしませう。元の物質、肝臓のための漢方薬を、TQ 処理装置の一部に置く。先の物質、ステンレスを、TQ 処理装置の他の部に置

く。一定時間、TQ 処理装置に、きまつた作動をさせる。

すると、何がどうなるか。

元の物質、肝臓のための漢方薬には、〈生命促進性〉の質があります。この質を、元の物質の型と呼びます。TQ 処理装置のきまつた作動により、元の物質の型、〈生命促進性〉の質が、先の物質、ステンレスに、移るのです。ステンレスの〈生命促進性〉の質、先の物質の型が、元の物質の型、肝臓のための漢方薬の〈生命促進性〉の質と、同じになるのです。とともに、元の物質も、先の物質も、その〈生命促進性〉の向きと強さが、健康に良い向きの、自然界においてももっとも強い状態となります。これらの結果は、半永久的に固定されます。プラスチック以外であり、TQ 処理装置を害さないものであれば、元の物質は、どんな固体でも液体でもよく、先の物質は、どんな固体でもよいです。

ステンレスなど、ありふれた物質の型、〈生命促進性〉の質を、肝臓のための漢方薬など、貴重な物質の型と同じにする。とともに、〈生命促進性〉の向きと強さを、健康に良い最強にする。元の物質と先の物質の組みあはせは、無数に考へられます。

TQ 処理により、このやうに物質の〈生命促進性〉を変化させる。この物質を、健康や住居や食物流通や農業や環境の分野において、適正な場所に配置すると、空間の〈酵素活性場〉を調整できる。〈酵素活性場〉は実は、原始人が生死にかかはるものとして予感したものであり、それを調整できる。この原理を応用していく、技能と技術の開発は、これから百年以上も続く、と予想されます。これが TQ 技術です。

ところで、中国の医学を中医学と言ひます。中医学において、薬石やくせきと表現されてゐるものは、天然の鉱物です。それに対し、TQ 処理は、人工薬石の生産であると、規定できます。TQ 技術は、〈気功の工業化〉であるとも、規定できます。

なほ、生命に関する応用技術は、次のことをバランスよく考へる必要がありませう。

〈酵素活性場〉を中心とする場。原子核。水蒸気。水。ミネラル。油脂。酵素。微生物。遺伝子。

今のバイオ研究は、遺伝子にとらはれすぎてゐないでせうか。

TQ 技術は民族学者が原始人 (日本では縄文人) の「アニミズム」と呼ぶ現象の物理面や生理面に関係してゐるやうです。わたしは逆に数年前、「アニミズム」の本質を、今までの物理学・生理学・民俗学・民族学とも調和するやう、〈酵素活性場の予感〉と規定いたしました。その際、日本未来学会編『宗教の未来』(東京書籍 1994 年) なども深く参考となりました。さらにこの〈酵素活

性場の予感)が『万葉集』『源氏物語』『奥の細道』などにも反映されてみると判断され、やまとことばの声を重視するため、2013年2月から、旧かなづかひに夢中となつてをります。たとへTQ技術を国際的勢力が奪取したとしても、その文学に原始人性を反映させてある素朴な日本民族の貴重さにもどつてこざるをえないでせう。

19世紀20世紀の電磁気・電磁場の技術史と学問史により深く学びつつ、TQ技術(電磁気・電磁場でなく、〈生命促進性〉といふ物性と〈酵素活性場〉といふ場の仮説)の社会化と学問化について、未来展望していく。わたしどもは〈電磁場の19世紀20世紀から酵素活性場の21世紀へ〉をめざしたいのです。

日本社会はアジア新興市場などの低価格労働力などに負けない技術優位性をどう開発していくか。かういふ情勢にあり、わたしどもの提案は本質的であると信じます。

父は若いころに東京工業試験所にて化学実験の訓練をしてゐましたが、1971年ごろ名古屋大学農学部のある研究室を訪ねました。その研究室の研究(植物の花が咲く時の触媒物質)について、父自身の化学実験の訓練経験を活し追試してゐたところ、名大の化学的発見とはまた別の、新しい生体物理学的な現象を発見しました。続いて二十年以上をかけ、現象を技術化する発明をいたしました。無生物の物性加工により諸生命に影響を与える、生体物理学的な技術であり、名大の化学的研究とは異質なのですが、あくまで端緒となつた名大の発見(触媒物質名 Tocopherol と Quinone)に敬意を表し、TQ技術と称してゐます。

TQ処理済の物質を手に入れば、入門として、TQ技術のおもしろい実験を一般民衆へ手軽に呼びかけられます。

TQ処理したものは健康や平和の役に立つかな？

もしも役に立つとしたらどう役に立つのかな？

みんなにみんなに実験してもらひたい。

みんなのみんなの実験について話しあつてもらひたい。

味の悪い安い食塩の味が変わるかな？

酸味の強いレモンの味が変わるかな？

コーラやビールは気が抜けるらしい...

味の悪い安い日本酒・焼酎・洋酒の味が変わるかな？

たばこの味が変わるかな？

さまざまな悪臭対策になるかな？

やけど・切り傷・筋肉痛・肩こり・腰痛などの対策にもなるかな？

さまざまな食物の鮮度が保持されるかな？

植物や動物の生命に良い影響があるかな？

ヨガや気功の修行者に感覚してもらふと驚くかもしれない...

生命に悪さうな場を改善できるかな？

君は TQ 技術のエジソンになれるかな？

TQ 技術の未来性に対し、社会の学問や法律などが追いついていない、といふ面もあります。わたしどもが実用品と考へても、実用品と公称することが、制限されることもあります。したがって、わたしども TQ 事業協会は、研究用品を、前面に押し出します。TQ 事業の健全な発達を、ひろく研究していただくためです。今までの物理学や生理学の修正と補足が必須と考へられる特殊な、TQ 技術の事業すなはち市場創造は、実用市場を創造する前に研究市場を創造すべきだと、わたしどもは判断してをります。たとへば 17 世紀の地動説が禁止されてゐた社会において、地動説に関心のある人びとは、どのやうに活動したのでせうか。

まづ日本民族のとくに民衆も味方につけ、実用市場の前に研究市場を創造していく。内向きには実用品と判断できても外向けには研究用品と称する。無理なく無駄なく学問討論や応用思想確立や社会的了解を準備しつつしだいに将来は実用市場も創造していく。さういふ過程を最高品質最低費用にて実現していく。わたしはかういふ説明準備のため 2005 年 11 月より JOMON <sup>縄文</sup>あかでみいサイト [www.jomaca.join-us.jp](http://www.jomaca.join-us.jp) を運営してをります。福沢諭吉先生の『学問ノススメ』はその目的を達成しつつあり、これからは『学問の転換』の時代ではないでせうか。大日本帝国の陸軍独走とは正反対に、健康平和な現実認識において日本民族の自立と諸民族調和へおもてなしする日本社会の成熟が必須です。

以上の意味の〈ものづくり進化の安産へ〉、諸賢との共同研究を強く望むしだいにございます。